

# リフレクションの実践

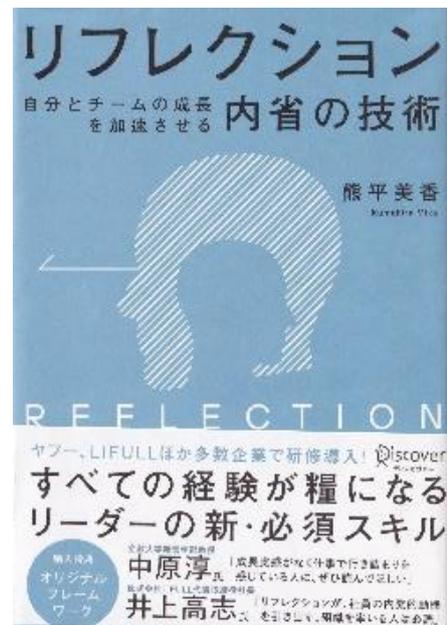
梅田 富雄(化工会)

昨夜のテレビ番組で岸田総理の成長と分配が話題になっていました。昼間の国会での枝野氏と総理の間でも議論されていました。枝野氏は分配重視、総理は成長重視の立場だったと思います。まずは所得の低い人たちの救済に繋がる分配重視。対して成長により、分配が可能になるとの成長重視と考えられますが、それぞれの主張が実現した際に、成長や分配が実行された後のそれぞれの行動が期待されないときはどうなるか、今後具体的なことがはっきりすると思いますが、直接関わりはないですが気になりました。

もし企業に所属していて、このことに関わることになったと仮定すれば、低所得者のみ支援することは公平ではないとの立場から期待通りには処理できないと考えるはずで

岸田総理への衆議院代表質問でのやり取りによれば、「新しい資本主義」とは何を目指す

か、との質問に、総理の回答は「成長と分配の好循環を目指す、急速なデジタル化の進展により、社会が変わっていく予感がある。成長の果実をしっかりと分配することで次の成長が実現する。」つまり成長なくして分配はあり得ない、との趣旨を述べています。また、新自由主義をどう定義するかの質問に「新自由主義的な政策には市場原理主義、優勝劣敗に偏重した成長を目指すという冷たいイメージがついている。私が目指すのは、成長と分配の好循環による血の通った成長だ」と回答している。(朝日新聞 2021年10月13日朝刊より)



このような仮定の話を書いたのは、たまたま「リフレクション」(内省の意味)という本を読み始めていたからで、基本は次の通りです。

「自分を知る、ビジョンを形成する、経験から学ぶ、多様な世界から学ぶ、アンラーンする(学んだことを手放す)

これらの基本を応用していくことで、自分自身の成長だけでなく、他者への理解を促進したり、組織をまとめるリーダーシップを育んだりすることができる。…リフレクションをせずに過去の成功体験をだけを頼りにしては理想の姿を描くことも、前進することも難しい、今後ますます多様化する社会で、一人ひとりが能力を発揮できるようにリフレクションの習慣が広がることを願っている」

このようなことがあって頭の体操のつもりで成長と分配の課題を取り上げた次第です。

たまには分配重視か成長重視かの選択肢について思いを巡らすのもよいのではないのでしょうか。(2021年10月13日)